

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K22759

研究課題名（和文）地域創成まちづくり事業を活用した医療の枠組みを超えた地域医療教育の検証

研究課題名（英文）Influence of medical students' experiences in community building projects in collaboration with co-medical and non-medical students. as new community-based medical education

研究代表者

岡山 雅信（Okayama, Masanobu）

神戸大学・医学研究科・特命教授

研究者番号：10285801

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,700,000円

研究成果の概要（和文）：医学科生が非医療系学生と協働して企画運営した「まちづくり事業（よいとこ健診）」の教育効果を検証した。医学科生を対象に地域及び地域医療に係る意識の影響、非医療系学生との協働作業の影響、よいことを褒める行為の影響を明らかにした。参画により地域医療の実践の意欲、地域医療を実践スキルが高まり、地域への親近感の醸成をもたらすことが示唆された。非医療系学生との協働は医療系学生とは差異はないとする一方で、考え方や価値観の違いから学びがあった。ポジティブフィードバックはよい行動の継続・強化に有効である認識した。地域活性化事業を活用した教育プログラムは地域医療教育プログラムの一つになり得ると考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療系学生による多職種協働作業による教育プログラムの効果はすでに多く報告されている。一方で、非医療系学生を含む多職種協働作業は、医療系学生との差異はないものの、考え方や価値観の違いから何らかのことを学んだことが示唆されたことから、今後、この学びを明らかにすることによって新たな多職種連携プログラムの開発につながることを考える。また、「まちづくり事業（よいとこ健診）」が地域の親和性及び地域医療の実践の意欲を高めることが示唆されたことから、まちづくり事業を活用した教育プログラムが効果的な地域医療教育プログラムとなり得ることから、新たな地域医療教育プログラムの創造につながると確信する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the influences of the “community building projects (Yoitoko health checkup)” operated by medical students in collaboration with co-medical and non-medical students. The effects of awareness regarding the community and community health care, the impact of collaborative work with them, and the consequences of praising good behavior were examined for the medical students. It was suggested that this program would increase motivation to practice community health care, increase practical skills in community health care, and develop a sense of affinity with the community. While collaborating with non-medical students is no different from co-medical students, medical students learned something from differences in thoughts and values. Positive feedback would be effective for the continuation and reinforcement of good behavior. The educational program utilizing community-building projects would be a good one for community-based medical education.

研究分野：地域医療

キーワード：地域医療 まちづくり 他職種協働 非医療系学生 ポジティブフィードバック

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

姫路市夢前町地区での地域創生の取り組み「健康増進のまちづくり」として「夢前花街道事業」と「加点的健診事業」が実施されている。具体的には、「夢前花街道事業」では、地元レストランを活用した食活動や健康フェスタが開催され、「健康増進のまちづくり」の広報活動が展開される。この活動に、医学科、栄養学科、保健学科、経済学科、経営学科、文学科などの大学生が参加し、地域住民との交流、地域の豊かな自然体験を通して、地域創成事業に貢献している。この事業では、「加点的健診事業(以下、よいとこ健診)」も同時に展開されている。よいとこ健診では、食生活・栄養状態、身体活動度、社会活動度、生活リズム等が調査される。この健診は、良い生活行動に注目し、健康スコアとして加点方式で評価するポジティブフィードバックを活用して、住民の健康意識の向上や社会参加の促進を目的とした斬新な発想を持つ健診である。この健診は、医療系学生および非医療系学生の協働作業により企画運営されている。健診での医学科生を含む学生の役割は、マニュアルに従って、良いところを褒めるフィードバックも含まれる。この健診では医学科生を含め学生は健康問題の同定とは真逆である良い点を褒める行為(以下、ポジティブフィードバック)を経験する。

医学科生に対する医療系学生との多職種協働作業の効果については既に数多く報告されている。しかし、非医療系学生との協働作業の影響は明らかになっていない。さらに、地域医療を実践する上で、生活者の視点は不可欠である。良い所に焦点を当てて住民と接することが、病気の視点でなく、生活者として住民を捉える大切さの気づきを増やす可能性がある。ポジティブフィードバックが、生活者モデルを理解するための方略の一つとなり得る。また、生活者モデルの理解の高まりは、地域志向性および地域医療マインドの醸成につながる可能性がある。

このように、現状の枠組みを超えた、健康づくり事業をきっかけとしたまちづくり事業での非医療系学生も含めた他職種連携作業の教育プログラムを評価することの意義は高いと考える。また、よいとこ健診の医学科生に対する地域志向性および地域医療マインド(地域医療への意欲・やり甲斐)への教育効果を明らかにすることは、新たな地域医療に係る教育手法を生み出すことに繋がることと期待される。

2. 研究の目的

本研究は、1)よいとこ健診の参加による医学科生の地域および地域医療に係る意識への影響、2)非医療系学生との協働作業の医学科生への影響、および 3)良い所を褒める行為(ポジティブフィードバック)の医学科生への影響を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

1)よいとこ健診

よいとこ健診は医学科生、栄養学科、保健学科、経済学科生、経営学科生、文学科生の学生からなる企画学生が中心となって運営されている。大学教員の指導のもとに、健診開催に向けて、夢前町地区の自治会との事前調整や健診の実施方法の立案および調整を行い、医療系学生および非医療系学生が協働して同健診を当日の運営を行っている。健診対象者は夢前地区の住民。募集は企画学生が作成したリーフレットを活用して地元自治会の役員が実施している。健診項目は、高齢者生活機能評価項目、身体計測、ファイブコグ(認知機能検査)および栄養評価。健診項目測定後に、健診結果に従って、受診者に対して、よいところ(よい健診結果、とくに行動様式)を中心にポジティブフィードバックを行う。なお、コロナ感染症の感染拡大の影響によって、よいとこ健診の完全対面実施は2019年以来2022年9月が初めてであった(本研究事業期間中1回のみ)。

2)質問紙調査

研究時期：よいとこ健診実施前後に質問紙(ウェブ)調査を行った。対象：健診当日の運営に参加した医学科生。調査項目：個人属性(年齢、性別、出身地等)、実施前後のよいとこ健診に対する全般評価、非医療系学生との協働作業に対する意識、住民とのコミュニケーションに対する評価(ポジティブフィードバックに対する評価、生活者モデルへの理解、コミュニケーションスキルの自己効力感)地域医療の実践および将来に対する意識(地域志向性、地域医療マインド、総合診療志向、臓器別専門診療志向、将来の働く地域)。計測方法：個人属性を除く項目は、NRS(Numerical rating scale、0-10)。出身地は自己評価でへき地出身または都市部出身を4段階評価で計測した。解析：各項目単純集計。個人属性以外の項目は健診実施前後の比較を行った。

3)インタビュー調査

研究時期：実施後6か月以内に半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。対象：健診を企画運営した医学科生。調査項目：よいとこ健診への参画の評価、非医療系学生との協働作業に対する意識、ポジティブフィードバックへの評価、地域および地域医療に係る意識。班構造化質問内容：「よいとこ健診に学生が関与することについて、どう考えますか」「参加することは、将来、地域医療を実践するうえで役立つと思いますか」「非医療系学生との共同作業について、どのような考えを持ちますか。とくに、医療系学生相手との違いはありますか」「ポジティブフィードバックは意味があると思いますか。とくに住民の行動変容につながるとは思いますか」「参加した住民に対して、何か思いがありますか」「参加したことによって、住民に対する印象は変化しましたか」解析：テーマティックアナリシス方を用いて要因を分析した。

4. 研究成果

1) 質問紙調査

健診当日の参加学生 25 名のうち医学科生は 7 名。回答は健診前 7 名 (回答率 100%)、後 5 名 (同 71%)。年齢 (平均±SD) は 20.6±1.4 歳、性別は男性 4 名 (57%)、女性 3 名 (43%)。出身地は都市部 2 名 (29%)、どちらかと言えば都市部 3 名 (43%)、どちらかと言えばへき地 0 名 (0%)、へき地 2 名 (29%)。個人属性以外の結果は表 1 に示す。参加前後において、よいとこ健診に対する全般評価はすべての項目、地域医療の実践に係るほとんどの項目、ポジティブフィードバックに係る項目の回答スコアが 8pt 以上であった。統計解析において、よいとこ健診に対する全般評価、非医療系学生との協働作業に対する評価、住民とのコミュニケーションに対する評価、地域医療の実践および将来に対する意識については健診参加前後で医学科生の回答に統計学的有意な差は認めなかった (表 1) しか、医療系学生相手と非医療系学生相手のコミュニケーションに違いがある (+ 2.1pt) 「地域医療にやりがいを感じる」 (+ 0.9pt) 「どのような知識が地域医療を担うために必要なかを理解している」 (+ 0.9pt) は健診後の回答スコアは高い傾向を示した。

表1. 医学科生に対するよいとこ健診への参画の影響

項目	参加前 (n=7)	参加後 (n=5)	p値*
よいとこ健診に対する全般評価			
「よいとこ健診」に参加するのは楽しいと思いますか	9.1 ± 1.4	9.4 ± 0.8	0.74
住民にとって「よいとこ健診」は意義があると思いますか	9.4 ± 1.0	9.6 ± 0.5	0.76
「よいとこ健診」に学生が関与することは意義があると思いますか	9.6 ± 0.7	9.8 ± 0.4	0.57
「よいとこ健診」の参加は、地域医療を实践するうえで役に立つと思いますか	9.4 ± 0.7	9.6 ± 0.5	0.69
非医療系学生との協働作業に対する意識			
「よいとこ健診」において、非医療系学生との協働作業は意義があると思いますか	9.4 ± 1.0	9.2 ± 1.0	0.73
医療系学生相手と非医療系学生相手のコミュニケーションに違いがあると思いますか	5.3 ± 2.3	7.4 ± 2.4	0.19
非医療系学生との協働作業は、地域医療を实践するうえで役立つと思いますか	9.0 ± 1.6	9.4 ± 0.8	0.65
住民とのコミュニケーションに対する評価			
ポジティブフィードバックは有効な手段だと思いますか	9.1 ± 1.1	8.8 ± 1.0	0.63
ポジティブフィードバックは良い手段だと思いますか	9.1 ± 1.1	9.0 ± 0.9	0.83
ポジティブフィードバックは住民の行動変容を促すと思いますか	8.0 ± 1.8	8.4 ± 1.4	0.71
住民が生活する中で、病気の占める割合がとても大きいと思いますか	5.9 ± 2.1	6.2 ± 2.8	0.83
住民と会話することには抵抗を感じますか	2.1 ± 1.0	2.2 ± 0.7	0.92
地域医療の実践および将来に対する意識			
地域医療にやりがいを感じますか	8.9 ± 1.1	9.8 ± 0.4	0.13
地域医療を担う自信がありますか	7.0 ± 1.3	7.6 ± 1.6	0.53
どのような知識が地域医療を担うために必要なかを理解していますか	6.3 ± 1.7	7.2 ± 1.7	0.42
将来、総合診療専門医になりたいと思いますか	7.6 ± 1.8	7.8 ± 1.0	0.82
将来、臓器別専門医になりたいと思いますか	6.0 ± 2.1	6.4 ± 2.2	0.78
将来、行政医師になりたいと思いますか	5.7 ± 2.5	6.0 ± 3.1	0.88
将来、研究医師になりたいと思いますか	4.0 ± 2.3	3.6 ± 3.3	0.83
将来、へき地で働きたいと思いますか	8.4 ± 1.0	8.8 ± 1.6	0.67
将来、都市部で働きたいと思いますか	5.3 ± 1.3	6.0 ± 2.2	0.53

NRS(0-10)、平均±SD、*unpaired t-test

2) インタビュー調査

企画運営に関わった医学科生 4 名 (男性 2 名、女性 2 名) にウェブビデオ・ミーティングシステムを用いてインタビューを行った。インタビューは学生の語りが飽和した時点で終了として、インタビュー時間は各々 18 分～30 分であった。4 名の学生の語りの総数は 93 であった。これらの語りから、12 コード：企画運営能力の醸成、地域医療の実践力の習得、住民に対する肯定的感情、人的ネットワークの構築、モチベーションの向上、コミュニケーションスキルの向上、生活モデルの理解、異分野の視点の気づき、対等な関係性の構築、よい行動様式の継続・強化、褒めることの良さの気づき、地域への親近感の醸成が抽出された (表 2)。

表2 ポジティブフィードバックを行うよいとこ健診を企画運営した学生の認識

コード	定義	語り
1. 企画運営能力の醸成	企画運営および関係者との交渉の経験を通して実行力 (企画運営力、責任感、トラブルへの対応、役割の認識) の向上	「企画してみようと言われて初めてやるよりも、こういう経験を通して企画運営の大切さとか、いかに計画性が重要かとか、責任感だったりとかいうことを学生のうちに学べて良いなぁと思っています。」
2. 地域医療の実践力の習得	地域医療の経験、疑似体験および診療に近い形式 (医療面接) でのコミュニケーションの経験の経験、または地域医療を实践する上で重要な視点 (予防の視点) の気づき	「地域医療により近いような形で、そういった経験を積めるメリットが学側にある」
3. 住民に対する肯定的感情	住民に対する感謝、幸福を願う気持ち、肯定的な認識への変化など住民に対する感情の肯定的変化	「地域医療により近いような形で、そういった経験を積めるメリットが学側にある」
4. 人的ネットワークの構築	人脈の構築、学生間のネットワークの構築および先輩後輩のネットワークの構築	「留学生の方がだったりとか、他学部の方とか、先生方とか、すごく人脈が広がったかなと思います」
5.モチベーションの向上	医学に対する学修意欲の向上	「フィードバックをしていて思ったので、知識をもっとつけたいという欲が出てきた」
6. コミュニケーションスキルの向上	住民と会話の機会、地域住民との交流などを通して会話する能力の向上	「地域の方と話すタイミングはすごい良い学びになるのかなぁと思ってます」
7. 生活モデルの理解	日々の生活の理解や日常困っていること、理解などを通じた生活モデルの理解	「生活してどう困っているのかを聞けるのもありがたいです」
8. 異分野の視点の気づき	異なる分野の人の認識を知ること、およびモチベーションの違い、言葉の理解の違い、認識の違いなどの気づき	「普段生活している医学科の人しか聞かないので、普通にその人を、他の、医学科以外の人を知ると言うのが貴重な機会でした」
9. 対等な関係性	専門性が発揮されないものに対しては対等な関係性との認識	「協働作業において、特に、医療系だろうが非医療系だろうが関係ない気がする」
10. よい行動様式の継続・強化	ポジティブフィードバックによる住民のよい行動の継続・強化 (継続する、さらに行動を強めるなど)	「自身を持って生活をそのまま続けていけるための、一つの助けになっていけば良いなぁと思います」
11. 褒めることの良さの気づき	ポジティブフィードバック (ほめる) ことの良さや効果を認識	「褒められたら単純にやっぱ人は嬉しい、プラスの感情はすぐ生まれると思う」
12. 地域への親近感の醸成	地域への親近感、地域の幸せを願う気持ちなど地域への愛着または親近感の醸成	「何度も行って住民の方と話したことがあるという経験が、地域に対して少し親近感をわかしてくれている」

3) まとめ

よいとこ健診の参画によって、地域医療の実践の意欲は高まる可能性が示唆される。企画運営は、地域医療を实践するためのスキルの習得には効果的であることが示唆される。また、人的ネットワークの構築、生活者モデルの理解、地域への親近感の醸成をもたらしたことから、町づくり事業を利用した教育プログラムは地域医療教育プログラムの一つになりえると考えられる。非医療系学生を含む協働作業について、専門性を伴わない作業においては対等な関係性があり非医療系学生と医療系学生の協働作業に差異はないと医学科生は認識している。一方で、考え方や価値観の違いから何らかのことを学んだこと示唆される。具体的に、考え方や価値観の違いの認識が、どのような影響をもたらすかも含めて、今後、さらに詳細は分析が必要と考える。ポジティブフィードバックについては、医学科生は肯定的に評価している。また、よい行動を継続および強化することに有効な手段と考えている。なお、コロナ感染症の感染拡大の影響のため、調査が不十分な所があるため、これらの結論は今後更に検証が必要と考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 岡山雅信	4. 巻 111
2. 論文標題 地域医療教育の現在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本内科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1988-1991
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yahata Shinsuke, Okayama Masanobu	4. 巻 13
2. 論文標題 Is there a difference between distance and in-person learning during the COVID-19 pandemic in decentralized settings?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Medical Education	6. 最初と最後の頁 92 ~ 99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5116/ijme.6250.020b	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kenzaka Tsuneaki, Yahata Shinsuke, Goda Ken, Kumabe Ayako, Akita Hozuka, Okayama Masanobu	4. 巻 17
2. 論文標題 Efficient open recruitment and perspectives of host families on medical student homestays in rural Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0263132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0263132	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yahata Shinsuke, Takeshima Taro, Kenzaka Tsuneaki, Okayama Masanobu	4. 巻 11
2. 論文標題 Fostering student motivation towards community healthcare: a qualitative study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e039344 ~ e039344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2020-039344	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kenzaka Tsuneaki、Yahata Shinsuke、Goda Ken、Kumabe Ayako、Kamada Momoka、Okayama Masanobu	4. 巻 9
2. 論文標題 Effects of Vaccination Day Routine Activities on Influenza Vaccine Efficacy and Vaccination-Induced Adverse Reaction Incidence: A Cohort Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Vaccines	6. 最初と最後の頁 753 ~ 753
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/vaccines9070753	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yahata Shinsuke、Tamura Minoru、Yamaoka Atsushi、Fujioka Yoshihide、Okayama Masanobu	4. 巻 Volume 14
2. 論文標題 Comprehensive Geriatric Assessment Using the Yoitoko Check-Up, a Novel Health Check-Up Providing Positive Feedback to Older Adults: A Before-After Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of General Medicine	6. 最初と最後の頁 2589 ~ 2598
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/IJGM.S307423	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kenzaka Tsuneaki、Yahata Shinsuke、Goda Ken、Kumabe Ayako、Akita Hozuka、Okayama Masanobu	4. 巻 15
2. 論文標題 Acceptance of a homestay program and attitude toward community medicine among medical students	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0238820
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0238820	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yahata Shinsuke、Takeshima Taro、Kenzaka Tsuneaki、Okayama Masanobu	4. 巻 20
2. 論文標題 Long-term impact of undergraduate community-based clinical training on community healthcare practice in Japan: a cross-sectional study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-020-02258-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yahata Shinsuke, Takeshima Taro, Kenzaka Tsuneaki, Okayama Masanobu	4. 巻 11
2. 論文標題 Fostering student motivation towards community healthcare: a qualitative study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e039344 ~ e039344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2020-039344	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡山雅信	4. 巻 56
2. 論文標題 地域医療という言葉、地域医療人材の育成は言葉の理解から始まる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域医療	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watari T, Hirose M, Midlov P, Tokuda Y, Kanda H, Okayama M, Yoshikawa H, Onigata K, Igawa M	4. 巻 20
2. 論文標題 Primary care doctor fostering and clinical research training in Sweden: Implications for Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Gen Fam Med	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgf2.211.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 岡山雅信
2. 発表標題 地域医療教育の現在
3. 学会等名 第119回日本内科学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八幡 晋輔, 岡山 雅信
2. 発表標題 地域医療教育における、遠隔教育と対面教育の効果の比較 地域医療夏季実習前後アンケートを用いた横断研究
3. 学会等名 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yahata S, Takeshima T, Kenzaka T, Okayama M
2. 発表標題 How students foster motivation toward community healthcare: a qualitative study
3. 学会等名 WONCA 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kenzaka T, Yahata S, Kamada M, Goda K, Okayama M
2. 発表標題 Influenza vaccine effectiveness and adverse reactions: the impact of lifestyle habits on the vaccination day
3. 学会等名 WONCA 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡山雅信
2. 発表標題 Withコロナ時代の総合診療・地域医療教育を考える 神戸大学でのオンライン教育の経験から
3. 学会等名 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八幡晋輔、岡山雅信
2. 発表標題 受診者を肯定的に評価する新たな健康診断「よいとこ健診」による、高齢者総合機能の短期的な変化：前後比較研究
3. 学会等名 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八幡晋輔、岡山雅信
2. 発表標題 COVID-19流行下における、オンライン型地域医療教育の有用性：地域医療体験ツアーオンライン
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 見坂恒明、八幡晋輔、合田健、隈部綾子
2. 発表標題 卒前地域医療体験実習が将来の勤務地選択に及ぼす長期効果 - 第2報 -
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山地 翔太, 八幡 晋輔, 岡山 雅信
2. 発表標題 学生が行う講義が、他学生のプライマリ・ケアへの興味にもたらす影響：横断研究
3. 学会等名 第11回日本プライマリ・ケア連合学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八幡 晋輔, 竹島 太郎, 見坂 恒明, 岡山 雅信
2. 発表標題 地域枠医学生は、どのように地域医療への意欲を醸成するのか：質的研究
3. 学会等名 第11回日本プライマリ・ケア連合学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 見坂 恒明, 八幡 晋輔, 合田 建, 隈部 綾子, 岡山 雅信
2. 発表標題 地域医療体験実習（地域医療夏季セミナーinひょうご）経験が実習地を将来の勤務地の候補と考える長期効果
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八幡 晋輔, 竹島太郎, 見坂恒明, 岡山雅信
2. 発表標題 地域医療臨床実習が、将来の地域医療の実践に及ぼす影響：横断研究
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kashiki K, Yahata S, Kenzaka T, Okayama M.
2. 発表標題 The secular change in attitudes of medical students toward community medicine brought about by the summer program in Hyogo prefecture
3. 学会等名 WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yahata S, Tsuda T, Doi H, Okayama M
2. 発表標題 Assessing the materials and methods of clinical research in primary care: A systematic review.
3. 学会等名 WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中黎, 八幡晋輔, 奥湧志, 山岡淳, 藤岡秀英, 岡山雅信
2. 発表標題 「よいとこ健診」の実践を通じた、学生の学び
3. 学会等名 第33回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田口真理子, 川口夏未, 八幡晋輔, 見坂恒明, 岡山雅信
2. 発表標題 学生による、住民を対象とした健康教育の経験が、学生にもたらす効果
3. 学会等名 第33回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥湧志, 八幡晋輔, 田中黎, 山岡淳, 藤岡秀英, 岡山雅信
2. 発表標題 よいとこ健診：地域活性化事業「夢前花街道事業」と連携した新たな健診増進の取り組み
3. 学会等名 第33回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 184
3. 書名 地域医療学入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

よいとこ健診とは https://www.med.kobe-u.ac.jp/dcme/yoi_toko/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	八幡 晋輔 (Yahata Shisuke) (00795768)	神戸大学・医学研究科・助教 (14501)	
研究分担者	見坂 恒明 (Kenzaka Tsuneaki) (90437492)	神戸大学・医学研究科・特命教授 (14501)	
研究分担者	合田 建 (Goda Ken) (20914576)	神戸大学・医学研究科・助教 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------